

育てる

校長 木和田 美佐

自宅のベランダと居間の窓辺で幾鉢かの植物を育てています。自分が好きで育ててはいるのですが、これがなかなか手がかかります。

まずは毎朝毎晩の水やりです。少しでも水枯れするとすぐに「くたっ」となってしまうものもあります。しかし、水をやりすぎると根が腐ってしまうものもあるのでやっかいです。それぞれの植物が好む水の量というものがあそうなのです。ですから、「これは毎日たっぷり」と、「これは土が乾いてから」等とそれぞれに合った水の量を考えながらやっているとい意外に時間がかかります。

それから肥料です。これも一筋縄ではいきません。のべつ幕なし一年中栄養をあげていいものでもありません。適切な時期に適切な養分が入っているものをあげないといけません。時期や養分を間違えると、逆に枯れてしまったり、葉だけが青々と生い茂って花が付かなかったりするのです。また、少し弱っているものに栄養満点な肥料を挙げてしまうのも控えなければなりません。風邪をひいている人に、「栄養を付けなさい」、と言ってステーキをたべさせているようなものです。「まずは消化の良い重湯から・・・」という塩梅で、徐々に回復させていくことが必要です。

また、外敵から守る対策も不可欠です。夏の強い陽射しから守るため、遮光ネットなるものが売っているそうですが、私は古いシートで代用します。少し気を抜くと虫に葉をかじられたりしていることがありますので、元気で生き生きと育っているか、毎日の点検と定期的な消毒も欠かせません。ひらひらと蝶が周囲を飛んでいる時は要注意です。何週間か後に小さな芋虫が必ず発見されます。

そして、すくすくと育ってくると鉢が小さくなってきますので、定期的な植え替えも必要です。小さな鉢に閉じ込めておくと根が病気になって腐ったりするからです。少し大きめの鉢を用意してやり、土も新しいものに替え、なんなら伸びすぎた根はきれいにカットして新しい環境に引っ越しさせます。そして、新しい環境に引っ越しさせたら、しばらくは刺激を与えないように室内に置いて様子を見ることも肝心です。馴染んだかどうか、様子を見てから外に出します。

最後の仕上げとして、励ましの声をかけたり音楽を聞かせたりすれば完璧なのでしょうが、私にはそれだけの時間はありませんので、せいぜい「はい、お水だよ」くらいは話かけるようにして「大切に思っている」という気持ちだけは必ず伝えるようにします。

このように日々植物たちに振り回されているのですが、ある日、「ぽつつ」と小さな蕾を見つけた時のうれしさは、たとえようもありません。今までの苦労は霧が晴れるように消えてなくなっていくます。育っていくものへの愛おしさは何物にも代えがたいものです。

これからも幾鉢かの植物を相手に私の悪戦苦闘は続きます。「別に育ててほしいと頼んだ覚えはない」と思われているかもしれませんが・・・。

※次のページに駅伝大会の報告が続きます。